

コードを携帯する



細い紐、細引きなどと呼ばれるコードが手近にあると何かと便利である。束ねる・くくる・固定する・引っ張る・押さえる・運ぶ……などさまざまな場面で使うことができる。しかし、長いがゆえにこんがらがってしまい、いざ使おうとしたとき使えなかったり、持ち運ぶとき嵩張ったり、困ることが多い。

そこで、持ち運びやすく、使う時には容易に伸ばせるまとめ方を考えた。

日常の使用場面ではコードは 2m ほどあれば使い勝手が良い。折り返してまとめ、最後は全体をひと結びするのが一般的である。それをちょっと工夫した。

- ① 全体を 2 つ折りにする
 - ② 2 本の端を 8 の字結びでまとめる
 - ③ 折り返した部分の 5cm ほどから 2 本一緒に引き解け結びをする
 - ④ 引き解け結びの輪の中にコードを折り返して入れ、輪を作る
 - ⑤ これを繰り返してコードを編んでいく
 - ⑥ 最後はこの輪の中に、最初の 5cm 程の折り返しを通す
- この折り返しの部分にカラビナなどの接続器具を使って持ち物に吊るす。

使う場合には、引き解け結びに編み込んである終端部に通したつり下げに使っていた部分を引き抜き、8 の字結びの部分を引きくと編み込みが解ける。

2m 程のコードが手の中に収まるほどコンパクトにまとめられた。編み込みはフックにかける部分で押さえられているのでフックにかけた状態では解けない。この差し込みを抜くことで解ける状態になる。コードの端の 8 の字結びを引くと二重になった状態のコードになるので、ものを束ねたり、固定したり、持ち運んだり、引っ張ったりすることに使うことができる。長いコードが必要な場合には 8 の字結びを解けばよい。



引き解け結び

留め結びを折り返したものである。

結びの中を通っている方を引くと結びが解ける。

これを二本取りで行い、輪の中を通っている方のコードを折り返して輪の中に入れ、これを繰り返すことで編んでいく。